2014/8/21 編集版

JICA ボランティア派遣国での

気候変動の影響

及び「任地での『日本人がたくさん CO2 を排出したから気候変動のこのような大変な影響が出ている。どうしてくれるんだ?』の声にこう答えます」

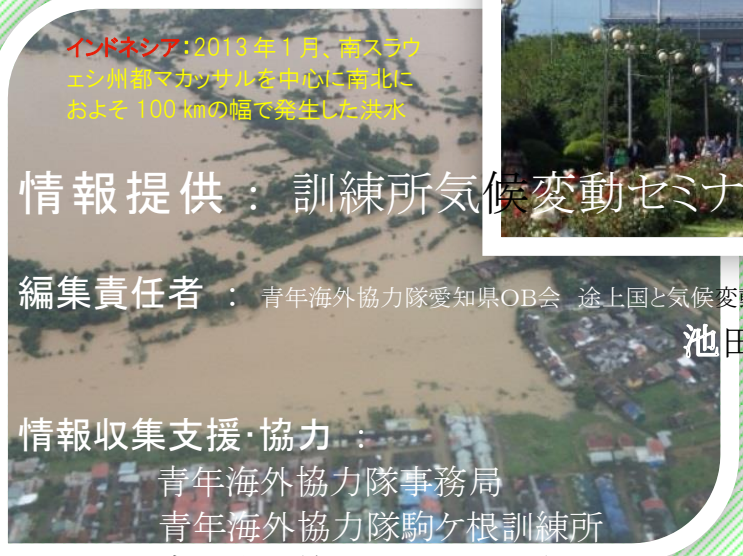
「2010 年 8 月　パキスタン水害に関する情報」

モルジブ：海面上昇の結果、砂浜が削られ、ヤシの木が倒れる(2009 7 に提供)

に関する報告

～ VOL.2　アジア②　12ヶ国編　～

キルギス：首都ビシュケク。2013 年 6 月 17 日に突如寒波が襲い、山は雪化粧



インドネシア：2013 年 1 月、南スラウェシ州都マカッサルを中心に南北におよそ 100 kmの幅で発生した洪水

情報提供：訓練所気候変動セミナー参加者

編集責任者：青年海外協力隊愛知県OB会　途上国と気候変動問題研究委員会

池田　直樹（H7-2　ケニア　理数科教師）

情報収集支援･協力：

青年海外協力隊事務局

青年海外協力隊駒ケ根訓練所

青年海外協力隊二本松訓練所

国際環境 NGO　FoE Japan

下保木伸悟 OV（H17-1　マーシャル　環境教育）

馬渡ふじ香 OV（H17-1　グアテマラ　環境教育）

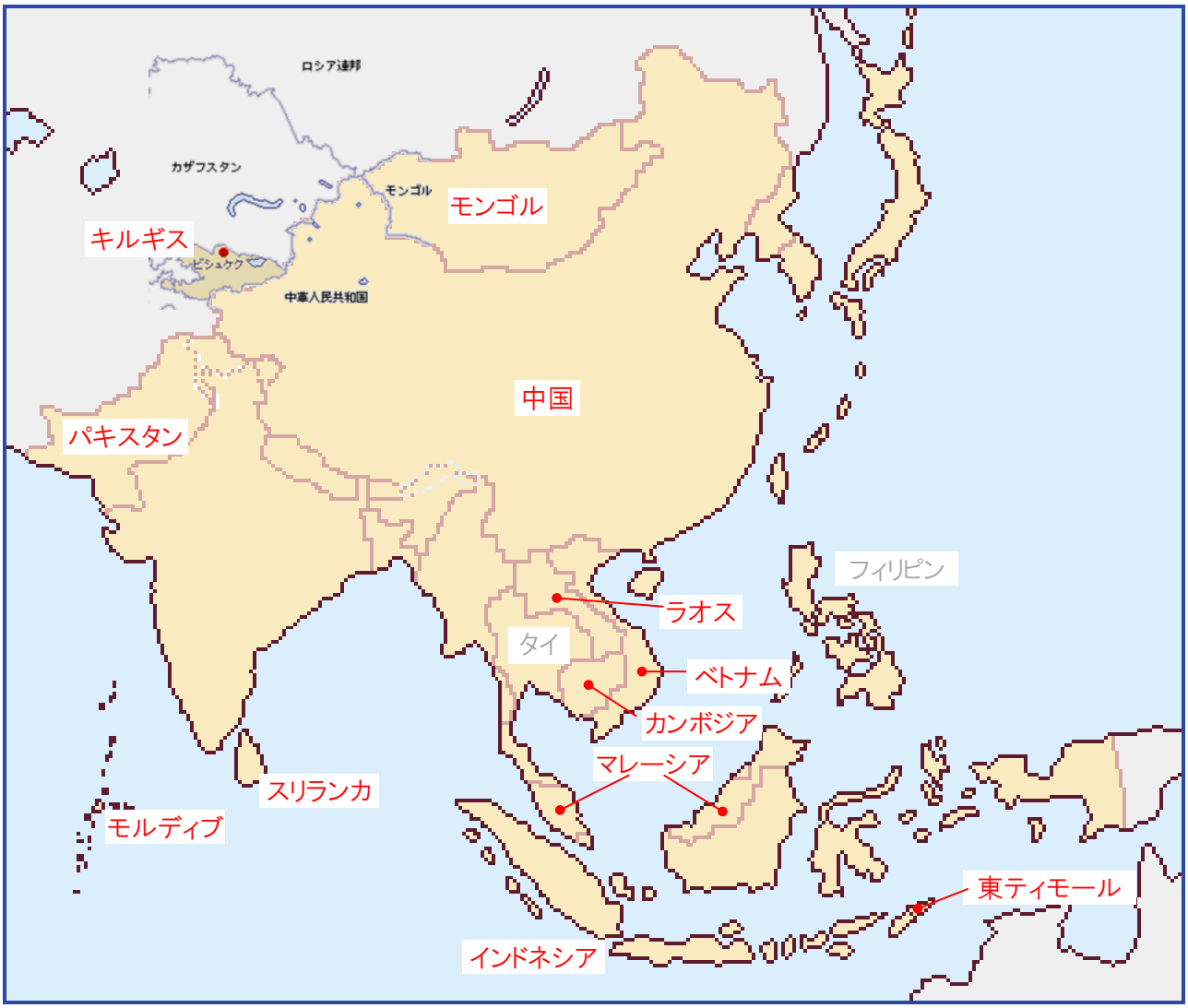
柳井真結子 OV（H16-1　ニカラグア　環境教育）

目 次

アジア 【12 ヶ国/36 件】 ―――― p3

p3 ・中国 【3 件】
p5 ・モンゴル(※) 【6 件】
p10 ・キルギス 【6 件】
p14 ・ベトナム 【2 件】
p15 ・カンボジア 【2 件】
p17 ・ラオス 【6 件】
p20 ・マレーシア(※) 【2 件】
p22 ・インドネシア 【1 件】
p25 ・東ティモール 【1 件】
p24 ・スリランカ 【3 件】
p26 ・モルディブ(※) 【3 件】
p28 ・パキスタン 【1 件】

・ (※)の国は、2008～09 年にかけて、その国から公式に国連(IPCC)へ報告された内容と合致していることが判明している国です。 【ＪＩＣＡ気候変動室調べ】



アジア

中　国

2009（平成 21）年

暖冬

（09/02/12　着）

私の任地は北京から北 200 キロ行った河北省承徳市というところです。

山に囲まれ、風の通り道となっているため、冬はかなり冷え込み日中でも－10℃くらいにしか気温が上がりません。

寒い寒いと言う僕に同僚が言います。

「今はまだいい方。10 年前はもっと寒かった。こんな服装じゃ外出れなかったわ。」

この事を他の同僚に聞くと、大抵「気候変動してるからねぇ」と当たり前のように言われます。そして、明らかに 10 年前よりも雪の降る日が少ないとも言っています。ですがここの人たちにとっては冬が厳しくなくてすむ事が嬉しいようです。

それともう一つ。

雲南省を旅行中の事。標高 2700 メートルの場所にある宿に泊まっている際に

「今年は雪が降らなかった。毎年絶対降るのに。奇怪だ。」

と宿の人が教えてくれました。

どちらも裏づけのあるデータでは無いので、真偽のほど（それが温暖化のせいなのかについても）は定かではありませんが住民の生の意見という事で、参考までに情報提供とさせていただきます。

困難な情報入手

（09/05/12　着）

ご要望(注：気候変動に関する当会からの情報提供のお願い)のこと前報でも承知していましたが、今回、市観測センターからの情報提供がダメとの正式回答を得ており、公式データによる提供はできないです。

私は 1 月着任なので、実感できる点はありません。

日本人会の人は長くても 4 年程度なのでこの情報も難しいのが実情です。

2010（平成 22）年

任地での『日本人がたくさん CO2 を排出したから気候変動のこのような大変な影響が出ている。どうしてくれるんだ?』の声にこう答えます

（第 1 報　10/8/31　着）

中国に派遣されたシニアボランティアの A です。
JOCV の苦悩は良くわかる気がします。

自分なりに、問題点を整理して、回答を作成してみました。
不十分な点は、みなさんと語り合えれば幸いです。

添付資料は長いですが、前半は問題の整理で、後半部分が私なりの回答です。

環境教育を啓蒙活動に終わらせないことが肝要かと思います。

【以下添付資料より】----------

ボランティアの意見 「任地で『日本人が CO2 を出している』と言われたら?」

背景を明確にしておかないといけないと思います。CO2 に限った意見ではないでしょう。

一つ目は、地球環境の問題について、だれに責任があるのかというのか、そしてその解決の責任を取るべきものは誰かと

いうことなのだと思います。

二つ目は、この問題への解決策の基本はどこにあるのかという質問だと思います。COP15でも、途上国は CO2 排出規制について、先進国と同様の規制を拒否しています。責任の取り方が問われていると考えるべきだと思います。

この質問を受けるボランティア側の背景に、環境教育でインドネシアへ行き、廃棄物再利用(リサイクル)について支援を行った経験者から、廃棄物の山から有価を回収するスカベンジャーの生活の糧を奪うのではとの危惧を聞いたことがあります。単純なシステムの変更は、途上国では貧困者の生活を奪うことにしかならないという矛盾を抱えながら、環境教育の指導をしているという困難さが見えます。

破滅的な将来への可能性に直面して、重大な決定を迫られている。直面している問題の多くは、先人達が善意で下した決定の結果である。事実、こうした決定の多くは、現生代及び前世代の両方に対して、非常に有益な結果をもたらした。しかしそれはまた破滅的な結果ももたらした。

決定の多くは、現在先進国である我々が、そしてその先人が下したものであるから、責任は我々先進国にあると確かに言える。しかし、気候変動枠組条約では、重要な合意点として「締結国の共通だが差異のある責任」を挙げている。この質問をした人たちが、この締結国の人たちならば、“差異のある責任”を自覚しておいて欲しい。

解決策は、これまでとは異なる発展のシナリオであるが、このシナリオをどれだけ共有できるか、先人達が善意ではあるが、過去に行ってきたことを途上国の人たちが修正なく、継続するならば、先進国の負担では、到底背負いきれないことが明らかになっても、従来のシナリオを継続したいのかどうかである。(途上国では、少なくとも一人当たり排出量が先進国並みになるまでは、先進国と同等の負担は不公平だと主張している)

多分、この応分の負担かどうかということで、地球全体を納得させる配分が決まらない状態に苛立って、いるのが上記の質問の真意であると思う。地球人はこの状況中で、次のシナリオを準備しました。“持続可能な開発＝経済発展”このシナリオが発展途上国にどのように働くかを明示できないと、途上国のフラストレーションが高まる事になります。

地球環境問題の全てに、答える能力もないので、提起された問題 CO2 の削減について、持続可能な開発=経済発展にについて考えると、JICA の環境教育のボランティアとして、提起された問題への回答は以下のようになると思われる。

「日本人が CO2 を出している」と言われたら？への私の回答

1.

あなたの質問、疑念は、現在の環境問題の内、地球温暖化について、その主原因といわれる二酸化炭素濃度をこれまで高めてきたのは、主に先進国の責任ではないか？ということでしょうか？(日本1国が発生している CO2 量は中国、アメリカ、ロシア、インドに次いで全体の 4.5%に過ぎません、一人当たりでは、アメリカ、ロシア、イギリス、ドイツより少ないから)

それならば、先人達の善意ではあったが、誤った決定によって、予測できない危機的状況を招来させたのは、我々であることは間違いないと思う。しかし、気候変動枠組条約では、重要な合意点として「締結国の共通だが差異のある責任」を挙げている。この質問をした人たちが、この締結国の人たちならば、“差異のある責任”を自覚しておいて欲しい。

2.

あなたの質問の意図は、二酸化酸素排出量の削減を行うべきは、責任ある先進国であり、途上国に削減の義務は無いということを主張しているのでしょうか？

・「締結国の共通だが差異のある責任」は、締結国間で合意された事項です。応分の責任は貴国にもあるわけです。主に先進国に、温室効果ガス削減の為の政策の実施の義務が課せられていることも事実です。日本を含めて、この方針の

中で努力をしています。

・ 各国間の“持続可能な発展＝経済”の為の交渉の場（COP会議）で、主張するべきことだと思います。

各国は将来の壊滅的な危機を避けたいと思っていますが、全ての国は地球が一つで、この地球の為に、各国の利害を犠牲にして、取り組むところまでには至っていません。先進国は今の生活を犠牲にしてまで、途上国の発展を支援する気はありませんし、途上国は発展途上の経済を規制して、地球を守りたいとも思っていないのが実情だと思います。

多くの国が納得可能な妥協点を見出す作業が必要になります。

3.

私達が JICA のボランティアとして、活動しようとしていることは、この危機に直面して、環境倫理学や持続可能な発展についての学問を広く、みなさんに知ってもらうこと、そしてこれらが指し示すシナリオを共に考えていこうというものです。「*2.* 」項で述べたように、各国の利害の衝突を出来る限り回避する為の、知識と学問をみなさんに届けることが使命だと私は考えています。

このシナリオは前もって、どの国がどれだけの負担を負うべきかを明示できるものでは、ありません。科学・技術の開発や制度・政策の開発を含めて、互いに努力する方向性・価値観を示すに過ぎません。出来るだけ、負担が少なく、妥当性のある妥協点を見出す為の活動なので、途上国の皆さんの政治や経済を考慮した環境教育を目指していかないとダメだと思っています。（単純な自然を守ろう、リサイクルの為の分別を行おう、というような環境教育では、経済発展へのシナリオの中に位置づけられていない。途上国では経済発展あってこその自然保護であり、リサイクル活動なのだから）

モンゴル（※）

2009（平成 21）年

暖冬傾向

（09/05/17　着）

首都ウランバートルを離れ、任地へ赴任して3週間が経ちます。

さて、灼熱または温暖な地で日焼けしながら活動するイメージの強い協力隊ですが、北国モンゴルでは昨日も雪がふりました。

今頃いちばんいい季節を迎える日本人の我々からすると、こんな時期に雪なんてと思ってしまいますが、降雨量の少ないモンゴルではこの時期の雨や雪は大変喜ばれます。

逆にこの時期に降らないと、夏の緑豊かな草原の風景は得られず、家畜や牧民は非常につらい思いをするそうです。

近年モンゴルでも温室効果の影響は顕著なようで、特に冬の気温が上昇してきているとよく耳にします。

先月まで滞在していましたウランバートルでは、驚くほど自動車が多く、道を渡る度に寿命の縮む思いをしたものです。

きっと排ガスもかなりの量が出ていると思われます。青空の下の空気の美味しい草原のイメージとははっきり言って真逆で、到着直後はやや息苦しくも感じました。

そんな春先の環境は、冬を越した人に言わせるとまだ生ぬるいものだそうです。

というのも、冬場はさらに石炭を燃料に暖をとる影響で、窓の外が煙って見えないほど空気が濁ってしまう地域もあるようです。

これは都心の周囲に広がるゲル集落の暖房からのもので、不景気の影響を受け仕事をさがして地方から上京し、市街地の周りにゲルを構える人々はどんどん増えているそうです。

（ちなみに都市のアパートに住む人々は、電力会社から供給される、お湯を使った集中暖房を使用しています。）

途上国と経済、環境問題のつながりを感じずにはいられません。

ちなみのちなみに私の任地はそんなゲル地区の人々の冬越しに欠かせな

い、石炭の取れる炭鉱の町だったりします。
もともとはそのおかげで割に潤いのある地域だそうですが、不況の波はこの町にも来ている様子。
ゲル集落もウランバートル程ではないものの戸数は増えているみたいです。

また、温暖化とはそれますが、ゴミの分別もされておらず、ゴミ処理は草原に大きな穴を掘って埋め立てているみたいです。
先日牧民の家に行く際通った草原で、ゴミの山を目にしました。
観光業も国の経済を支える大きな柱になるはずですが、これにはツーリストもかなり興ざめです。

都市に住む人でも休日には田舎で過ごすのが好きと口を揃える自然大好きなモンゴル人ですが、自分達の日常生活と環境問題との結び付きは日本人以上に現実のものとしてあまり感じていないのが現状かなと思います。

訓練所でのセミナーで、途上国の環境問題にはあまり関心が向けられない傾向にあるけれど、途上国こそ状況は深刻でありアクションが必要だとおっしゃられていた意味が少し分かった気がしました。

私の活動先の学校では環境学習センターがあり、協力隊とは別にNPOと協力しての JICA の支援が入っていて、植林のプロジェクトなどを行っているようです。(詳しくは今の語学力では聞けませんでした…)
何がキッカケでも良いでしょう。
愛国心の強いモンゴルの人々が自ら美しい草原の国を守ろうと考えられる日がくるように、若い世代への教育が浸透していけばいいなと思います。

以上、実体験からご報告できる情報はあまりありませんが、何かお役に立てることがあれば幸いです。

次隊次の訓練生も忙しい時期にさしかかっている頃かと思います。
セミナーの際には皆様によろしくお伝えください。

季節のサイクルの変化 ／ 異常低温

(09/8/7　着)

隊員の皆様が、頑張っているのが伝わってきました。メールありがとうございます。また、画像はその土地の雰囲気がよく出てていいですね！(ていうか、自分も頑張らねば！！)

モンゴルも異常気象のようで、年々冬が温暖化の影響で暖冬となっているようです。

モンゴルは寒いイメージがありますが、夏はやっぱり暑い！！(夏も温暖化の影響？で、年々暑くなってきてると現地の人は言ってます)ほんとに暑い！　特に標高が1351mと高いせいか、日差しが強い！

ここ数日は特に暑くて30度を軽く超えています。

まさかモンゴルでこんなに真黒に日焼けするとは信じられませんでした！

2010 (平成 22) 年

大寒波⇒家畜の大量死　(1)

(10/2/12　着)

おひさしぶりです。

モンゴルの冬は本当に寒いです。(ちなみに現在も、外は－30℃・・・汗)

手袋や耳あて、マスク、(もちろん帽子も！)がないとその部分は必ず凍傷になります。

先日、帽子を忘れた先輩隊員は耳が凍傷になりました。見せてもらうと確かに耳が黒く焦げたようになってました。

恐るべし！！！

で、情報を。

1月末に首都UBで総会があり、地方の隊員とも話す機会があり、ボルガン県のセレンゲ村の隊員の話によると、今年の冬は例年以上の寒さで2000年に襲ったゾド(冷害)の再来とも思えるほど(その時は数百万頭が横死した)、家畜(特に羊)が死んだと言ってました。地方ではマイナス40～50℃になることもあったという。家畜はその家の最大の財産ともいえるので、全滅した家庭では、現在、政府の救援を待ち続け、なんとか生計の立て直しを図ろうと必死だとのこと。

確かに首都でもマイナス40℃になった日がありました。

モンゴルは今週末から旧正月(ツァガーンサル)のお祝いがあります。

暦の上では一応春にはなったのですが(先週金曜日に春

一番が吹きました！）まだまだこの寒さは続くでしょう。

暖かい春が本当にまちどおしいです。

大寒波⇒家畜の大量死　(2)

（10/2/21　着）

まずは駒ケ根報告会、無事終了したようですね。一安心ですね！

で、なんと自分が池田さんに送ったその翌日に偶然にもこんなニュースが出てましたので、驚きました。
コピーして送らせて頂きます。

次回の報告会でお使いくだされば幸いです。

モンゴルで猛寒波、家畜２００万匹が死亡

2010.2.12 23:45

このニュースのトピックス：アジア・オセアニア

国連児童基金（ユニセフ）報道官は１２日、モンゴルが強い寒波による異常低温や豪雪に見舞われ、これまでに家畜２００万匹以上が死亡したと語った。モンゴルの牧畜業者ら農業に従事する人は人口の４割程度に達し、今後、同国経済や社会に深刻な打撃となることが懸念される。

ユニセフは他の国連機関と連携し、食料や燃料、毛布や衣服などの支援を開始した。

寒波は４月ごろまで続く見通し。モンゴルは2001 年にも深刻な寒波被害があったが、今回はそれを上回る被害という。（共同）

大寒波⇒家畜の大量死　(3)
前年夏は猛暑・豪雨・降雪　(1)

（10/2/21　着）

二本松で「地球温暖化現象」に関するセミナーをしていただいてから、相当日が経ってしまい、時間が流れる速さに驚いております。

アイスランド、ヒマラヤ等の氷河の後退写真を見たことはありましたが、隊員による太平洋の島やアフリカ等現地情報や写真は真に訴えるものがありました。

JICAから世界各地に派遣されているボランティアによる生の情報は貴重な資料になるのでは･･･と、池田さんの着眼に注目しておりました。

その後、池田さんの分析がプラスされた情報を度々お届けいただきありがとうございました。大変興味を持って拝読させていただいておりました。とはいっても、仕事に追われ、特に私の方から情報を送らないままに今日に到ってしまったことをお詫びいたします。

お役に立つかどうかわかりませんが、取り急ぎ情報をお送りいたします。

モンゴルはご存知のとおり冬は極寒の地です。サモア情報とは天と地の差といったらいいのでしょうか、サモアから気温を少し分けていただきたいと思うくらい寒いです。

2010.2.5 付け
地元紙

今年は特に寒く、地方では－40℃以下のところもこともあったそうです。ウランバートルに住んでいる私のアパートの外にある寒暖計は－35℃を示したこともありましたが、現在は－20℃内で収まっています。ときどき－15℃位だと「今日は暖かいね～」と皆で話しているくらい、寒さの程度がちがいます。

寒さによる家畜への被害が深刻で、70％の家畜が死んでしまったと新聞で報じています。数字的にいうと、4,400 万頭[1]だそうですが、労働人口の3分の1が遊牧民とかで、生活への影響は深刻なものがあるようです。

2010.2.5 付け
地元紙

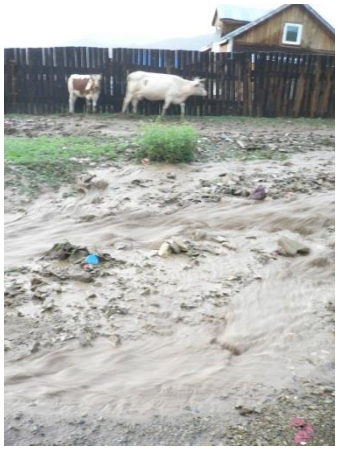
昨夏は大変暑く、干害もひどかったようです。また、干草の十分な貯蔵が行われないまま冬を迎えてしまったそうで、遊牧民の生活への影響は本当に深刻だそうです。

また、一方夏は雨がすごかったです。河の流域に住む人たちに影響を与え、家の浸水、流されるということもおきましたが、新聞によれば、24人もの人が溺れ死んだそうです。飛行機が飛ばず、家族と地方に旅行したSVがウランバートルに戻れなかったと言っていました。

2009.7.21 付け
地元紙

アパートの最上階である4階に住んでいますが、天井から雨漏りがして、バケツを抱えて、しのいだことが2度ありました。

ウランバートルから車で30分位離れたガチョードというところに出かけていた際に、雹を伴う大雨にも遭いました。少し傾斜のある地域なので、雨水が濁流のように流れ、歩いていると足がすくわれ、流されそうでした。



ウランバートルから30分も離れると広々とした草原が広がり、のんびりとしてとてもいい国ですが、気候変動による環境への影響はすこしずつ出てきているように感じています。モンゴルの西、バヤンウルギー県には氷河がありますが、その氷河もかなり後退したと聞いています。

狭いウランバートルにどんどん人口が移入し、車や人々でいっぱいですが、大気汚染、ゴミ問題、水問題も大きな問題になって来ています。環境、産業問題も加わり、地方はますます疲弊しそうで、心配していますが、気候変動に関しては

[1] 原文のまま。新聞記事には 200 万頭の数字が記載されている。

地球的問題とはいえ、関心をもって小さなことでも取り組んでいく必要があるのではないかと感じています。日本に帰ったら、地域の人たちといっしょに取り組みたい課題の一つです。

ウランバートル市の環境担当の人も関心を持っているように感じました。COP15に関しては聞いてみたいと思っています。

前年夏は猛暑・豪雨・降雪　(2)

（10/2/21　着）

早速返信ありがとうございます。

ガッチョード（大きな川が流れ、緑の多い別荘地です）に行った日、その日は**2009年7月21日**だったのかぁと思っているところですが、記録には21日と残っているので、そうだと思います。

モンゴルは夏と冬とでは日の出日の入りの時間が極端に違い、夏は朝は5時ごろから夜は10時近くまで明るいです。冬は8時半頃から空が少しずつ明るくなり始めて、夜は5時頃には暗くなります。

7月の7時は明るいですが、その日は空が暗くなり、雹が降り、そのうちどしゃぶりになりました。遊びに行った家の人が、モンゴル語で[雹だ、雹だ」と言ったんですが、はじめはわかりませんでした。止むのを待って1時間後あたりにウランバートルに戻る頃は雪になっていました。ウランバートルは盆地で山に囲まれていますが、周り中雪で、冬に逆戻りしてしまったように感じました。

モンゴルは冬夏の寒暖の差が大きく、冬が－40℃近いのに対して、夏は35℃位になりますから、7月に雪が降るなんて本当に異常でした。

雹のガチョード、ウランバートル市に向かう途中のバスから撮った写真等添付します。

キルギス

2011（平成 23）年

暖冬・雪ではなく大雨

（11/2/3　着）

池田様

いつもメールを頂きありがとうございます。

主観的なことになりますが、キルギスの首都ビシケクの気候を報告いたします。

近年の冬は暖かいというのが現地の感想のようです。

今朝、大雨が降っていました。

「ホストファミリーに雨が降っているよ。」

といったら、

「そんなことはない。今は 2 月だよ。」

という返事でした。

しかし、窓を開けて見せると、大雨を見てびっくりしている様子でした。他の現地人に聞いてもやはり2月に雨が降るのは大変珍しいようです。温暖化の一つの現象であろうと思われます。

先日スキーへ行きましたがやはり、雪が少ないようでうす。

以上、私の感じるところのみお伝えいたしました

今後は現地の人に、近年変化がなかったかもう少し聞いてみたいと思います。

キルギスは資源はあまりありませんが、雪山があるため水資源だけは豊富といわれてます。しかし、雪山の雪が少なくなるということは、将来的に他国同様水危機に見舞われる可能性もあると考えています。

それでは、またメールいたします。

「子供のころより降雪がない。」
将来的な水不足も懸念する現地住民

（22-3　日本語教師　川久保華世さんより
11/11/21　着）

池田様

いつも有益な情報の配信を頂きありがとうございます。

現状報告というより、現地人の印象です。

キルギスは山岳国家で、万年雪があり、水資源が豊富な国です。

現在31歳の男性が子供のころはたくさん雪が降り、アイスホッケーなどもして遊べたそうですが、最近はあまり降らなくなってしまったそうです。

山の雪も減ってきたらしく、水が不足していくかもしれないとのことでした。

些細なことではありますが、水戦争が懸念される中、水資源が豊富なこの国でも、将来の水不足への不安が見え始めているのでないかと感じましたのでお知らせする次第です。

それでは、お体にお気をつけてご活動くださいませ。

22－3　キルギス

川久保　華世

2012（平成 24）年

いつもは雪の降る４月に真夏日 ～　洪水を引き起こした 融雪・豪雨の原因か？～

（12/5/5 着）

池田様

お世話になっております。

（…中略…）

キルギスの首都ビシュケクでは、4 月に 1 度雪が降るのが通例になっていたそうですが

今年は雪が降らず、真夏日がやってきました。

雨が降れば、春に逆戻りですが。

他地域は相変わらず寒いそうですが、雪が降るほどではないとのことです。

以上です。

日本では GW、雨が多くて残念だったという友人が多いです。

池田様も、十分にご自愛頂きますよう。

2013（平成 25）年

暖冬・「春のようだ」 １月中旬～２月中旬

（13/2/18 着）

愛知県 OB 会

池田様

こんにちは、キルギス共和国からです。

ソロモン地震の件、迅速に情報収集・公開頂きありがとうございました。

いつも ML にて隊員の活動を見守り、励まして頂きありがとうございます。

さて、H24-4 にキルギス派遣者はいないはずですが、微細ながら報告させて頂きます。

キルギスが中央アジアにある国で国民の見た目が日本人とそっくりだということと合わせて、知ってもらえたら幸いです。

キルギス共和国は、冬場は首都で-20℃、村落部で-40℃といわれる環境ですが、今年の冬は大変暖かく、1 月中旬～現在までほとんど雪も降らず毎年どんよりした曇り空の下冬を越すそうですが、今年は街中に雪もなく空は晴れ、山々も望め、春のようだと同僚は話しています。

また、12 月に一度首都で-25℃を記録する寒波がありましたが、こちらは 14 年間キルギスに在住しているCCCP の日本語教師のソ連人の方が「長くキルギスに住んでいるがこんなことはまったく初めてだ」と戸惑いと怒り(環境の急激な変化に対する)をもって話されていました。

以上です。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

キルギスのこの５か月
「12 月大寒波 → 1～3 月暖冬 →
4 月まさかの降雪」

(13/5/20 着)

愛知県 OB 会　池田様

いつも大変お世話になっております。

(…中略…)

さて、キルギスの気候にも想いを馳せて頂きありがとうございます。

気象庁のデータが示す通り、今年の 3 月は暑く、4 月は雪が降る程の寒さが戻ってくるという不思議な気候でした。

2012 年 12 月(半年前)は、以前にも報告があった通り、例年にない大寒波が首都ビシュケクを襲い、洪水警報まででました。

これを受けて、キルギス政府は大寒波時の電力不足に備え、2013 年 1 月の全大学の授業を取りやめ(冬休みが長くなった)ましたが、そんな心配も取り越し苦労で、1～3 月は非常に穏やかな(例年よりも暖かい)日が続きました。

しかし、一転、4 月末はまさかの雪が降る程の寒さが戻ってきました。

キルギスの首都ビシュケクは、ロシアの首都モスクワの天気が 1 週間遅れでやってくると言われています。「ロシアのニュースで「モスクワで 4 月の雪」のようなことを言っていたので、気を付けてください。」と CP に言われていたのですが、その通りになりました。

キルギスでは桜にそっくりなアプリコットのとても可愛らしい花が咲くのですが、今年は花が咲いたかと思うと冬に戻り、花も散ってしまいました。夏には帰国の予定で、冬物を全て日本に送ってしまった日本人も短期滞在で一番良い気候の頃に来たはずの日本人も、着るものがなく、困っていました。

日本でも、桜の季節の後に一度グッと気温が下がったと聞きました。

H25-1 の駒ヶ根気候変動セミナーは、5 月 30 日(木)でしたでしょうか。キルギスにも数名の JOCV が派遣されると聞いています。よろしくお伝えください。

それでは、いつもいつも応援してくださり、本当にありがとうございます。今後とも何卒よろしくお願い致します。

寒暖の差があまりに大きい６月

(13/7/1 着)

愛知県 OB 会

池田様

いつも大変お世話になっております。

日本は激しい梅雨だと聞いておりましたが、お元気で御活躍の様子、メールをありがとうございます。

さて、早速ですがキルギスからもその後の様子を報告させて頂きます。

キルギスではその後、5 月と 6 月に大変な冷え込みがありま

した。首都ビシュケクの 6 月の様子をお伝えします。

6 月 12 日前後 → 30℃を超える夏日

6 月 16 日夕方～ → 暴風・雨、外でじっとしているには毛布が必要

6 月 17 日～ → 最低気温が 4℃程度、冬物のジャケットが必要

6 月 22 日前後 → 夏日が戻ってくる

6 月 24 日前後 → 最高気温が 42℃を記録する程の夏日

と、いった様子で 6 月中旬の冷え込んだ時期には地方（ビシュケク郊外含む）では雪が降ったそうです。

例年になく気温が上下するので体調を崩す人も多く、一度しまった冬物を引っぱり出したり・・・と大変そうでした。

5 月にも一度郊外で雪が降る程の寒さになり、その時も皆一様に驚きましたが、6 月にこんなに寒くなるとはさらに驚きです。

遊牧をしている人は拠点となるテント（遊牧民の）を張り生活の拠点を山へ移す時期ですが、こちらも日程をずらして対応する人もいたそうです。

個人的に毎日同じ時間に同じ場所で写真を撮っていますが、ちょうど並べると面白いので添付致します。昨年のものがなく、比較できないのが残念ですが。写真の題名が日付けです。

晴れた日（雲がかかっていない）のものだけで近辺の日程のものをお送りします。5 月末～6 月にかけて溶けた雪が、6 月 17 日前後に戻ってきて、その後一気に溶けていく様子がよく分かるかと思います。

写真の場所 ） キルギスの首都ビシュケク、ビシュケク市役所

写真の時間 ） 8:55 AM （キルギス時間＝日本－3 時間）

【2013.5.31 撮影】

【2013.6.7 撮影】

【2013.6.18 撮影】

【2013.6.19 撮影】

【2013.6.21 撮影】

ちなみに、キルギスにおいては 7 月末～9 月頭にかけてビシュケクのみ異様な暑さ（蒸し暑さに近い）に覆われ、地方から帰ってくるとシェルターに入ったかのようにはっきりとした場所の違いを感じることができます。

これは都市（車社会・人口過密社会）特有の暑さでしょうか。そろそろ避暑に行きたいところです。

以上です。長々と失礼致しました。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

ベトナム

2008（平成 20）年

「昔よりも暑い」／少雨⇒停電・断水

（08/10/17　着）

ダラットは標高　2000m　くらいの高原地ですが地元の人に聞くと昔（たとえば 20 年前とか）よりも暑くなっていると。

また、ベトナム南部は雨季と乾季の2季ですが今年は特に雨が少ないらしいです。

発電のほとんどが水力発電であるベトナムでは、雨が少ないのは大問題です。全国的に電気が足りないとのことで、停電・断水も頻繁に起きています。（地域によって差がありますが、私のところでは停電が週に2日、1日：4時間くらいで、断水はあまりありません）

2011（平成 23）年

異常低温

（11/2/17　着）

池田様

今タイの寒波の記事を読みました。

これに関連して、ラオスの１月は朝晩冷え込み上着が必要

なくらいでした。ここの連中や長くおられる JICA 関係の人達もこんなことはなかったと言っています。

また私と同期のベトナム（ハノイ）のボランティアも大変寒いと言っており、仕方なく電気ストーブを買ったと言ってました。

これらも異常気象？（エルニーニョの影響？）の影響なんでしょうか？

【この記事は「ラオス」国の欄でも掲載しました】

カンボジア

2009（平成 21）年

季節のサイクルの変化 ／ 異常低温

（09/11/19　池田編）

若林 勝 SV（21-2 ラオス派遣予定 気象用ドップラーレーダ）より 09／11／09 着でメールをお寄せいただきました。以下にご紹介します。

池田さま

二本松訓練所でお話をお聞きしたラオス派遣予定 SV の若林です。

少々旧聞に属しますが、小生がカンボジアの水資源気象省に SV として派遣されいた 2003 年ー2005 年に気象局活動支援時に暇つぶし（？）に書いた小文を添付します。

空想的ロマンを語るとしてアンコール王朝時代と現代の水環境に関して語ったもので、科学的な解析とは少々異なりますが地球環境の変化を理解する上で面白いのではと考え書いたものです。直接的に地球温暖化との関連はさらに詳しい知見が必要と思いますが参考にお送りします。

（気象に関わる大学関係の友人からはアンコール王朝時代の暦は旧暦ではないか？従ってこの小文の比較が正確か否かは更なる検証が必要では？と言われました）

いずれにせよ開発途上国に残されている貴重な気象データ記録を丹念に拾いだしていけば色々なことが見えてくるかも知れませんね。

草々

（注：波線部は池田編）

上述の若林 SV のレポート（「小文」とお書き頂いているもの）も本報告編集責任者の池田まで寄せられました。拝読致しましたところ、その論旨の大きな柱は次の 3 点だったと思いました。

・気象データはやはり取れると良い。ただしなかなか揃っていないことも多いようである。

・カンボジアでは、古来と比べて少雨となっていることが推測される。

・また現地で得られてデータによると、カンボジアの気温は、ここ 10 年で 1℃くらい上昇したことが伺えられる。

また 09／11／16 着で次の補足メールも頂いております。

尚、この小文で紹介した観測データは観測機材、体制

が十分とは言えない環境下でのデータと思われ、また精度的な信頼度も保証されていないと考えており、あくまでも想定の域を超えるものでないことご了解下さい。
(例:この 10 年間で約 1℃の温度上昇が所謂地球温暖化によるものか否か更なる検証が必要では、と思います)。

若林 SV のレポートをご覧になりたいの場合は一度池田までご相談ください。

2011 (平成 23) 年

カンボジアに関する 9 月 27 日付 OCHA 神戸の速報は次の通りです。

カンボジア:洪水ー2011 年 9 月

(26/09/2011, FL-2011-000148-KHM)

カンボジアで豪雨により洪水が発生し、約 100 人が死亡、15 州の約 90,000 世帯が被災した模様。約 170,000 ヘクタールの田畑及び 63,000 戸が浸水し、300 以上の学校が休校となっている。

これについて、カンボジアに派遣中のボランティアから、次のような情報が届けられました。

この方も特に被害には遭われていない、とのことです。

今回のカンボジア洪水について

(11/10/2 着)

……(略)……

【ニュースへの注訳】

1.「カンボジアで豪雨により洪水が発生」 そもそも,カンボジア以北(ミャンマー,タイ,ラオス域)からの季節性の移動により水量が増して来たところへ,雨雲が追いついて来たと言った方が正しく,「よくあるスコールと,以北からの水量増が重なった」と言った方が正しく,現地では洪水というよりも,水が溢れたという感覚です。

2.「90,000 世帯が被災」とありますが,水上生活者もいますので,この数値は当てになりません。

3.「63,000 戸が浸水」とありますが,高床式も多いので,これも全てを含んでいるとは限りません。

4.「田畑・・・浸水」とありますが,現地では水に浸かって当然という感覚です。

5.「300 以上の学校が休校」とありますが,もともと夏休みで休校です。10 月 1 日付けで新学期になります。

【任地について】

私の任地,タケオ(プノンペンより南に約 80km)では,大した被害は出ていません。毎年の如く, 水量(目方 1m〜1.5m)が増えたという感じです。任地への交通網も途中冠水ということもなく, 影響は限定的です。

【被害の大きい地域について】

もともと,海抜の低い国です。プノンペンで海抜 11m,シェムリアップ(アンコールワット群のあるところ)で海抜 22m,他,メコン・バサック・トンレサップ流域(本流・支流域)で海抜 3,4m から。

よって汽水域も広く,天然の調整池も多く,潮汐と水量の関係に合わせて,変化するのは当然のこと。

今回の洪水に付いては,2 年振りの大規模なものです。また,水域全体に及ぶので,範囲も大規模に見えます。確かに,飛行機からの眺めでは,支流と本流の境がなくなっていました。

でも,その一帯はもともと,浸水・冠水する地域で,水が来

て当然という感覚です。

さて，なぜ，冠水が大規模に起ってしまうのか。これについては，各地位域，下水道が整備され　始めていますが，これが追いついていないこと。もともと，治水能力に乏しいこと。水路整備が全くといっていいほど，棚上げにされていることにあります。

結局，水の逃げ道がないので，冠水しているのです。

気象データからも，裏が取れるはずです。カンボジアへのサイクロン・タイフーンの接近は希有です。100 回発生しても1回も接近しない確率です。ついでに，カンボジア発の情報には誤報もかなりあります。僭越ながらも留め置きを。

ラオス

2009（平成 21）年

国内の温暖化報道／乾期なのに大雨

（09/11/17　着）

あまり有益な情報ではありませんが、

ラオスでも最近になって温暖化について議論が交わされるようになってきているようです。

先達て、ラオス国営放送を見ていたら、温暖化について特集が組まれていました。しかしまだ言葉に不自由しているので、内容はあまり理解できませんでした。

ところで、今朝雨が降りました。どじゃぶりでした。

今は雨期のような曇天模様です。またいつ雨が降り出してもおかしくない空模様です。

すでに乾期に入り、通常であればこの時期に雨が降ることはありません。気候変動の影響なのか、たまたまそうなのかはわかりませんが。

私のわかる範囲でお答えしました。以上です。

2010（平成 22）年

昨年９月の台風、今年６月には大干ばつ 農作物収穫付加、農民生活へ脅威（1）

（10/7/6　着）

ラオスからです。

気候変動、環境問題に関連する最近のラオスの新聞記事をお送りします。

Attapeu farmers hit by severe weather yet again

Somsack Pongkhao

Attapeu province -- Villagers in Attapeu province affected by Typhoon Ketsana in September 2009 are now facing drought conditions, threatening the livelihoods of numerous farming families.

Locals say this is the worst drought to hit the province since 1968 and they are concerned that they will be unable to grow any crops this year.

Chief of Boungkeo village in Attapeu's Sanamxay district, Mr Bounchom Khamsiphieng, said by this time every year villagers have usually finished transplanting their rice crops.

"I'm not sure we'll be able to do any farming this year," he said.

"Even if we do get rain many of us will still not have enough rice to eat because the irregular rainfall has really affected rice production."

Most people in Attapeu province rely on rice farming to support themselves, but irrigation infrastructure lags far behind production needs and most farmers rely on rainfall to water their crops.

Last year, many villagers did not manage to harvest any rice because flooding.

CONTINUED PAGE 3

Villagers point to their empty rice fields.

Attapeu farmers hit ... FROM PAGE 1

triggered by Typhoon Ketsana, destroyed many rice fields.

At the moment, many families in the province do not have enough rice to eat, despite assistance from NGO-run rice distribution projects.

The French Red Cross' Field Coordinator in Attapeu province, Mr Francois Guegan, told Vientiane Times that the organisation has provided 45kg of rice to each person in the 12 villages of Sanamxay district, as well as buffaloes and rice seeds for farmers.

But it is still not enough, with an urgent need for rice, livestock and training to enable villagers to gain higher yields from their crops, he said.

Attapeu provincial Governor, Dr Khamphan Phommathat, said Typhoon Ketsana resulted in flooding in 10 percent of the province and destroyed 50 percent of all rice growing areas.

He said the storm caused 600 billion kip of damage and the Lao government has provided 50 billion kip to help victims recover.

"We need about 14,000 tonnes of rice just to ensure villagers have enough to eat until the next harvest, but we've received only 4,000 tonnes from the government and various projects funded by the European Commission," he said.

"The government will buy another 100 tonnes of rice from Vietnam to help villagers affected by the typhoon."

"We will continue to do our best to help our villagers overcome this disaster," Dr Khamphan said.

The European Commission has provided more than 2.6 million euros in emergency assistance to families affected by the typhoon in southern Laos.

The funds are being used by the French Red Cross, Save the Children, WFP and Care Australia/Health Unlimited to provide food and other essential items to the most vulnerable villagers.

In Attapeu province, the districts most affected by Typhoon Ketsana were Sanamxay and Phouvong.

10/6/21 付　ラオス新聞記事要約･抜粋(by 池田)

Attapeu 県の記事

(1)昨年 9 月は台風の影響を受ける

･洪水被害…県の 10%、米の不作…稲作地の 50%

･翌年収穫し村民(県民？)が食糧として必要な米 14000tのうち、政府やその他のプロジェクトから得た援助米は 4000tに過ぎなかった。

(2)本年は大干ばつが農民の生活に脅威を！

①1968 年以来最悪(地元紙談)⇒全く作物がつくれない

･灌漑インフラが遅れている⇒天水頼み

･昨年は(台風による)洪水で米の収穫なし

･NGO の米の配給があっても十分食べられる米はない

②Boungokeo 村長談

･「本来なら稲作への移植が終わっているところ」

･「今年は収穫できないであろう」

･「たとえ今後降水があっても、変則的な降水は稲作に影響を与えるため、十分な食料としての米は採れないだろう。」

昨年９月の台風、今年６月には大干ばつ
農作物収穫付加、農民生活へ脅威(2)

(10/7/13　着)

更にもう一度 7 月 7 日付けで同種記事がありましたので添付にてお送りします。

regards to combating HIV/ his intention to work with the Laos and the US for the then.

Low rainfall stalls rice production

Khamphone Syvongxay

Rice seedlings in fields all around the country are struggling to grow as rainfall continues to be erratic, a problem which may impact on this wet season's rice production.

Officials from provincial agriculture sectors have relayed concerns coming from farmers following below average rainfall again last month.

Farmers in Luang Prabang are no exception.

Head of the provincial agriculture section, Mr Houmpheng Sivilaysack, told the Vientiane Times yesterday that many areas of the province are struggling to cope with the lack of rainfall, and most farmers have been unable to transplant their rice crop.

He said a lot of young seedlings in Xiengngeun district in particular suffered from low rainfall last month after farmers decided to sow them prematurely in May.

The section is now coordinating with district authorities to help provide more rice seeds for affected farmers.

The provincial authorities, especially agriculture and forestry staff, are forming a thorough assessment of the quantity of dried up seedlings, Mr Houmpheng said.

He expects that number to be confirmed next week.

He also added that farmers who had not yet planted their crops were still being adversely affected, as they have no indication of when adequate rainfall might arrive.

And while farmers with modern irrigation systems have little cause for concern, this luxury is limited to a select few.

This wet season the Agriculture and Forestry Department planned to

CONTINUED PAGE 2

Young rice plants are dying in Khammuan province due to irregular rainfall.

Low rainfall stalls rice... FROM PAGE

encourage farmers to plant about 12,800 hectares of rice, but only 40 percent of that target has been achieved.

"We are also worrying about pests, because these weather conditions will make it easy for crops to become infested," said Mr Houmpheng.

Farmers in Khammuan, Savannakhet and Champassak provinces are also reportedly struggling, but detailed information on the extent of crop damage is still being collected by the provincial authorities.

Champassak agriculture section Head Mr Khamseng Sorphabmixay said that only a few hectares of rice have been planted in Phongthong district, much of which has already been damaged.

Some areas have been forced to use pumps to draw water while farmers wait for rain.

To respond to anticipated low yields and inflated rice prices, provincial authorities have begun implementing programmes to improve rice quality on a commercial basis.

This project is being run with cooperation from the government, rice mill groups and farmers to improve rice yields, but many farmers are now unable to reach the target production quota.

The cost of rice in Luang Prabang province is now relatively high at 6,500-7,000 kip per kg. That price is expected to rise steadily in the coming months as supplies continue to dwindle.

10/7/7 付　ラオスの新聞記事要約･抜粋(by 池田)

「少雨が稲作を行き詰らせる…」

雨季だが降水が不安定のため、稲の耕作地では苗が成長が困難になっている。

Luang Prabang 県

(1)県農業部門担当

･再び先月(6 月)は平均以下の降水量

(2)県農業担当長談話

･県の多くの地域で

雨不足の対処に苦しんでいる

米作から植え換えることもできない

(3)特に Xiengngeun 郡では

･5 月に農民が早まって稲の種まきを決めたあと、幼苗は先月(6 月)の少雨に苦しんだ(損害を受けた)。

･県の当局と郡の当局が共同して、影響を受けた農民に籾米の供給を行った。

(4)県の農林担当

・苗の枯渇量の詳細な査定を行っている。(来週には数値が確定する予定)

・逆にまだ植え付けをしていない農民も、適切な降水がいつあるかの目安がなくて影響を受けている。

・一方、灌漑施設のある農民は、このような問題は数えるほどしかない。

・このような気象条件だと害虫の繁殖も心配である。

この雨季に、農林局は農民に対して 12000ha の作付け援助を行う計画があった。(ただし対象の農民の 40%)

2011 (平成 23) 年

異常低温

(ラオスボランティアより 11/2/17 着)

池田様

今タイの寒波の記事を読みました。

これに関連して、1 月は朝晩冷え込み上着が必要なくらいでした。ここの連中や長くおられる JICA 関係の人達もこんなことはなかったと言っています。

また私と同期のベトナム(ハノイ)のボランティアも大変寒いと言っており、仕方なく電気ストーブを買ったと言ってました。

これらも異常気象?(エルニーニョの影響?)の影響なんでしょうか?

【この記事は「ベトナム」国の欄でも掲載しました】

例年より雨量の多い雨季
メコン川危険水位突破

(22-3 SV 家畜衛生 清水悟さんより 11/10/3 着)

ラオスからのボランティア情報です。

私はこちらに来てまだ 1 年も経ちませんので、去年の雨季の状況はわからないのですが、今年の雨季は従来の雨の降り方と少し違うということです。

こちらの人に聞くところによると、例年は 5 月中旬過から 9 月ぐらいまで、雨季と言っても夜に雨が降り、昼間は晴れていることが多いようですが、今年は 1 日中降ることも多く(時には 2,3 日)、また雨量も多いようです。

職場がメコン河のすぐ前にありますので今はかなりの水位になっており、先日も大使館よりメールがありましたが、各地で危険水位を突破しているという情報がありました。

とくにラオス南部では洪水(カンボディアと同じような状況)も多くの地域で見られているようです。

メコン河も氾濫するのではないかと言うと、こちらの人達は全く意に介していないようで平然としていますし、いつもより少し多いぐらいに思っており、あちこちに大きな池(湖)が出現していますが、皆網なんか持ち出し魚とりで忙しそうです。

多分お隣のタイやカンボディアなんかでも同じような状況だと思います。

一転して降雨なし (10 月中旬より)

(22-3 SV 家畜衛生 清水悟さんより 11/11/22 着)

温暖化 池田様

以前、ラオス南部の洪水についてお知らせしましたが、現在は打って変わって全く雨が降っていません。

タイの洪水はまだ続いているようですが、こちらではメコン河の水位も急激に引き、以前の乾季の時と同じ状況になり、中洲が’あちこちに浮かび上がってきました。

多分タイ北部、中部も同様だと思いますが、10 月中旬ごろから雨が一日を除いて一滴も降らず地面もカラカラになっています。

このままの状況が続くと今度は旱魃の心配が出てきそうな感じです。例年は 9 月の中旬ごろまでには雨季も終わるのですが、今年は長く、しかも雨量も多く 1 日中降ったこともありました。

地球規模からすると一時的な現象かも知れませんが、ちょっと異常な現象が起こってきているのかも知れません。

PS.今は少しぐらい雨が降って欲しいのですが、このまいくようだとまた連絡します。

マレーシア (※)

2009（平成 21）年

季節のサイクルの変化 ／ 異常低温

（09/05/12　着）

さて、地球温暖化（気候変動）なのですが、ここマレーシアでも現地の方は少なからず感じているようです。

具体的な例としては

1. ジャイアントオーキッドをはじめとする諸植物の開花時期のズレ

　－これは配属先に植物園があるのですが1年が経過してもまだ花が咲かないのをおかしく同僚に聞いたところこういう答えが帰ってきました。

2. フルーツの時期の変更

　－現在ホームステイ先が農園をしているのですが、以前は農場主は何月にどのフルーツの実がなるという時期がわかっていたそうなのですが、現在は大幅にずれているらしく結実時期を当てることが出来なくなってきているそうです。

3. 雨季が明白ではなくなってきている。

　－以前ははっきり”今は雨季だ”というくらい雨季には多量の雨が降り、それが終わると極端に雨が少なっていたそうなのですが、現在は雨季とそれ以外の季節が明

白ではなくなってきているそうです。これも同僚の情報です

4. 洪水の多発。細かい年数は忘れてしまいましたが 2000年以降(？)いままで経験したことのないような洪水が増えているそうです。

ーこれも同僚の情報なのですが同僚が一般の方に対して global warming のプレゼンをしているのですがそのための情報を主にネットだそうですが集めているそうです。

5. 涼しい地域(近辺だとラナウやスカウ)が暑くなってきている

ーこれは実際に現地に行って何気なく「暑いね」と現地ガイドに尋ねたところかえってきた答えです。

以上がここマレーシアサバ州セピロックで聞かれる地球温暖化(気候変動)の諸情報です。

また何かありましたら報告させていただきます。

2010(平成 22)年

深刻には捉えられていない 温暖化問題、森林伐採問題

(10/8/5 着)

(前 略)

気候変動に関わる情報ではありませんが、マレーシアで活動をしていて、気付いたことを少しですが共有させていただきます。

温暖化については少しずつ意識が高まってきてはいるようですが、深刻な問題として捕らえている人はあんまりいないように思います。

その例がエアコンの過度の使用です。

ホテルなどでセミナーなどを行なうとたいていの場合寒く、参加者は長袖の上着を着ます。スーパーやオフィスなどではエアコンをかけているにもかかわらず、ドアをずっと開けているところもあります。いつも暑い上に、産油国なので天然資源の大切さへの認識が低いのだと思います。

もう 1 点気になっているのは、森林伐採への関心のうすさです。

私の任地はミリというところで、ボルネオ島にあるのですが、ボルネオの森林伐採について現地の人が話しているのをほとんど聞いたことがありません。環境の話をしていても話題になりません。

石油と森林はマレーシアの経済を支えている二大産業なので、マレーシア人はあまりそれらの引き起こす問題について触れたくないのかもしれませんが、今後、森林の大切さについても伝えていきたいと思っております。

池田さんの送って下さる情報を見て、『温暖化の深刻さを伝えていかなければ』という気持ちが強くなります。私だけでなく、多くの人が同じ思いになっているのではないかと思います。情報をまとめるのはたいへんな仕事だとは思いますが、今後もぜひ続けてください。

それでは、失礼いたします。

インドネシア

2013（平成 25）年

2013 年 1 月の洪水　＆　地元住民の日常会話

（13/1/17　着）

OCV 愛知県 OB 会

途上国と気候変動委員会　担当者様

こんにちは

24－1、二本松訓練所で当セミナーを受講させていただきました工藤千春と申します。

理数科教師隊員として、インドネシア南スラウェシ州バルー県の中学校で活動中です。

現在インドネシアは、雨季の最盛期です。

首都ジャカルタで大きな洪水が起きた様子が TV で放送されています。

首都の話なのでもしかすると日本でも報道されているのでしょうか。

これは報道されていないと思いますが、実は 1 月5日に南スラウェシでも大洪水がありました。

州都マカッサルを中心に南北におよそ100kmの幅に渡る規模でした。

もともと 1 月は雨季の最盛期にあたります。

月別降水量のデータも 1 月は突出しています。

しかし、この地域は午前は降らず午後から降りはじめるパターンが一般的なのですが、今年は元旦から5日間降り続けたそうです。（自分は任地を離れていたため聞いた話です）

さらに、これは人災だと思いますが、町の用水路はゴミのポイ捨てにより流れが非常に悪く、少し長雨が続くと小さな洪水が起こり、道にゴミが溢れ出すのは残念ながら「日常」です。

これについては南スラウェシの人々も原因を自覚しているのですが、ポイ捨てを止める気もないようです・・・

ちなみに今回の洪水の規模が例年通りなのか、大規模だったのかはわかりません。

聞く相手によって「大規模だった」「普通」などマチマチです。

もともと洪水には慣れていて、市街地以外では高床式住宅が一般的です。

さらにイスラム圏なので、

「すべてはアラーのおぼし召し」で納得できてしまう気質があり

被害意識もあまりないように感じます。

先輩隊員の話では、少なくとも去年はこの規模の洪水はなかったようです。

自分は任地を離れていたので被害にあいませんでしたが、7 日（洪水が起きて2日後）に飛行機でマカッサルに戻った時の上空からの写真を添付します。 **（※冒頭 2 枚の写真　／　編集者）**

また、今回の洪水の話とは別件ですが、生活で感じたことです。

インドネシアにきて半年が過ぎましたが日常生活で、

「『気候変動』や『地球温暖化』の影響で○○が変わってきている」(例:雨季の開始時期、雨の降り方、農作物収穫時期など)という話を、日本で生活していたときよりもはるかに多く聞きます。 **(※原文には破線なし ／ 編集者)**

都市機能が未発達だったり1次産業に依存する割合が多い分、自然からの影響を敏感に感じるのだろうと思っています。

途上国に来てからの方がこれらの言葉を日常で多く聞くことに驚きを感じました。

はっきりとした「気候変動の影響」の情報ではありませんでしたが、データの一つとして保存して頂ければありがたいです。

このような微妙な情報が集まるうちに、何か大きな流れが見えてくることを期待します。

それでは失礼致します。

24－1

理数科教師

工藤千春

東ティモール

2010(平成22)年

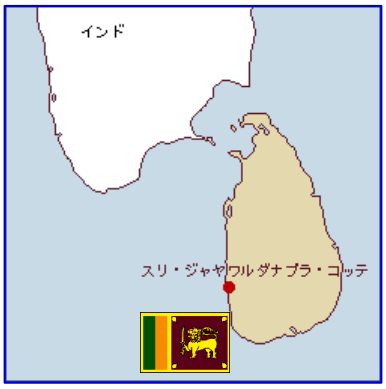
スコール、洪水

(ラオスボランティアより　10/7/11 着)

東チモールに赴任した友人からのメールの一部をご紹介します。

「東ティモールは連日のスコールと洪水です。日本も同様のようですが、やはり異常気象のようですね。東ティモールは私のイメージではカンボジアに似ています」。

スリランカ



2011（平成 23）年

乾季なのに大雨、大洪水、異常低温

（11/1/14　着）

池田様、いつも情報提供ありがとうございます。

これまで、まったく報告せず済みませんでした。詳しい情報ではないのですが、スリランカの最近の状況をお知らせしたいと思います。

スリランカでは、例年では 12 月に雨季が終了し、1 月には太陽が降り注ぐ季節のはずなのですが、今年は 1 月に入っても雨が降り続いています。特に、東部地区では大雨による洪水が発生して死者も出ているとの報道がありました。

また、温度の低さも例年になく、コロンボでは本日、最低気温が 18.8 度で 61 年ぶりだそうです。

私のいる南部地方でも昨年にはなかったほどの寒さを実感しています。

おおざっぱな報告ですが、お役に立てれば幸いです。

それでは失礼します。

編集者　注　**(11/1/15 記)**

上の報告が池田まで寄せられた後に、Web サイトへニュース記事が各社（TBS、CNN、インド新聞、読売新聞）か Yahoo まで配信がありました。

CNN(11/1/14 配信)の報道は次の通り。

「スリランカ豪雨で 100 万人被災、津波以来最悪

スリランカ・コロンボ（CNN）　スリランカ北部と中部で豪雨による洪水が発生し、100 万人以上が被災している。政府は 2004 年に同国を襲った津波以来、最悪の自然災害と認定した。

災害対策当局によると、豪雨による死者は少なくとも 23 人、負傷者は 36 人に上った。政府と国連機関は人道物資の供給態勢を強化している。

国連によると、同国の主食であるコメの耕作地にも被害が広がっており、農業、インフラ、住宅への影響は長期に及ぶ見通し。政府によれば、これまでに 150 万ドル相当を復興支援に充て、2 万 8000 人以上の兵士を動員して救助作業や食料の配給に当たらせている。

しかし支援団体関係者によれば、河川の氾濫、ダムの決壊、道路の水没などで被災地入りが難しい状況だという。

被災地の多くは、25 年に及んだ政府と反政府武装勢力『タミル・イーラム解放の虎（LTTE）』の衝突で被害を受け、まだ復興の途上にある。農地を荒らされた多数の農家は、09 年の内戦終結でようやく耕作を再開したばかりだったという。

国連食糧計画（WFP）によれば、内戦終結で帰郷する人への食糧割当量は大幅に減らされているといい、今後は食糧不足の深刻化も懸念されている。」

この情報を知った愛知県 OB 会員(スリランカ OBOG)に関する情報

（11/5/17　登録者メールに掲載）

最近帰国したスリランカ OG は、「今年になってからスリランカを襲った大雨による洪水で、**任地の 2 階建ての自宅が水没しました。**」と、これも 2 日前に直接会ったときに教えてくれました。そして、「その上寒くて。」。彼女は温暖化セミナーを受講されていない方でした。

そこで、彼女に報告集を見せ、今年 1 月 14 日着のスリランカボランティアからの情報を紹介しました。すると「まさにこの通り。」と、報告集の情報を裏付けて下さいました。

そして「事前に気候変動のことを知っていれば、そのつもりで捉えられたのに。」ともおっしゃっていました。

旧任国のことをあらためて理解しなおすきっかけとなったようです。

2013（平成 25）年

季節のサイクル異常　農作物ダメージ

（13/2/18 着・1 通目）

池田様

お疲れ様です。

現在スリランカ派遣の22－4青少年活動　多田欣礼です。

池田様とは、駒ヶ根でお会いさせて頂きました。

変わらず、アクティブに行動されているメッセージを頂戴し、頭が下がる想いで一杯です。

また、今回のメッセージでは、ソロモン諸島の貴重な情報を頂きました。

以下、極々微小でありますが、スリランカの気候の状況と、訓練所に対しての簡単なメッセージを添えたいと思います。

簡単ではございますが、よろしくお願い致します。

①スリランカの気候

現在、北中部州にて、乾季であるにも関わらず、気候が優れず、雨が降る日すらある。

現地の人の話曰く、こんな時期は、今までなかった異常気象である、農作物のダメージが甚大だ、とのこと。

②訓練所に対するメッセージ

活動で1番大事のものは、『体力とやる気と行動力』である。

とにかく、体力がなくては、話にならない、基礎体力、精神力、忍耐力が道を開く。

体力に自信がない人は、毎日走るか、何かして普通以上の体力をつけること。

普通レベルの体力では、すぐに病気や、皮膚炎、腹痛、下痢などに感染して、活動よりもそちらに惑わされ泣くことになる。

任国は、概ねどこも過酷な環境で、とくに地方に派遣されると、日本での何倍ものあらゆる角度の体力が必要とされる。

ちなみに、蛇足ですが、私は、スリランカで一番過酷だろうと言われている環境において、周りのJOCVが様々病に感染する中、全く、病気などには無縁で、現地の人以上に、元気一杯活動しています。それは、まさに体力で勝利しているからと自分で言うのもなんですが、言い切れると思います。

以上

22－4　スリランカ派遣　青少年活動　多田欣礼

よろしくお願い致します。

（13/2/18 着・2 通目）

一つ肝心なことを言い忘れたので、②のメッセージに付け加えさせて下さい。

・カウンターパートとの関係一番大事です！！

ボランティアは、主役ではないです。あくまで、その組織のサポート役です。推進するのは、カウンターパートと言われる、その組織の推進員です。

ここを勘違いしてしまうと、本末転倒です。

ですから、ボランティアは最初から最後まで謙虚に、推進員の後方にしっかり位置取り、決して離れるこ となく、時に応じて、やや前に出て、時に応じて後ろに下がる、そのように采配を振るうのです。

その為には、推進員のことを良く分かっていなくてはならない、また、自分のことを良く分かってもらっていなくてはならない。その為にしっかりとできうることは、尽くして尽くして、尽くし抜いて信頼関係を作るのです。

そうして、推進員が達成した実績は、まさにボランティアの実績となり、本当に意義のある、崩れない任国の発展となるのです。

以上です。

よろしくお願い致します。

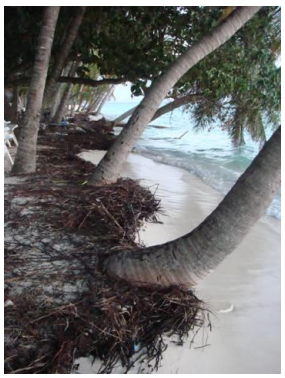
22－4　多田欣礼

モルディブ（※）

2009（平成 21）年

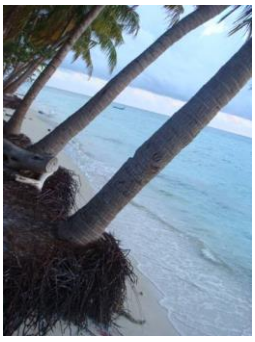
海は近付いている

（09/7/11　着）



さて、日本も暑い夏がせまってきていることと思いますが、ここモルディブは1年中常夏。ただいま雨季の時期です。

モルディブといえば、ツバルなどと同じように、何十年後には、温暖化による（？）海面上昇によって、沈んでしまうと言われている国です。



写真にもあるように、やしの木が削られていて、陸の部分が削られているのが分かります。島に住む人々に聞いても、何年か前は、もっと砂浜なども多く、今では行けない隣の島等まで歩いていけるほどだったそうです。

島の人たちはいたってあせったりはないのですが・・・

温暖化が騒がれ、それがどこまで本当かわかりませんが、実際に海が近づいてきているのは確かなようです。

少しですが、お役にたてれば幸いです。また、なにか情報等あったら、送らせていただきます！！

それでは失礼します！！

「首都マーレは今後 30 年で沈む」(?!)

(09/7/11　着)

わざわざご返事どうもありがとうございます！！

少し情報ですが、モルディブの首都マーレは、今後30年くらいで沈むと言われてるそうです。原因は、人口の過密に伴い、小さい島に建物をたてすぎたため、珊瑚でできた島はもう亀裂がはいってしまっているそうです。

この美しい国も何十年か先にはなくなってしまうのか・・・どうか・・・

珊瑚も成長しているため、島がなくならずに残るというような話しもあるとのことですが、とにかくかなり難しい状況なのは確かだと思います。

ただ、日々の生活の中で温暖化について話すことはありませんし、「何か違うな」とは思うものの特に生活は変わらないというのは日本と同じです。

2011 (平成 23) 年

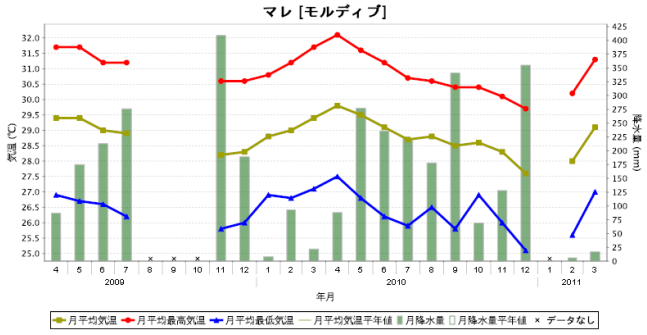
雨季に入っても少雨

(11/5/20　着)

お世話になっております。

モルディブでは4月の下旬か遅くても5月初旬から雨季となります。雨季は10月頃まで約5，6か月続きます。一日中雨だったり、降ったり止んだりすることもありますが5月初旬を過ぎると最低でも3，4日に一度は雨が降ると現地の人は言います。

毎年10月から4月までは全く雨が無い為、2月頃から毎年水不足となり、雨水を飲水としている住民は特にこの雨季の初めの時期にまとまった水を必要としています。



(ここ 2 年、5 月は 100～200 ㎜の降水量になっている。ここ 5 年でもデータのある年は同様である。気象庁 HP「世界の月天候データ」より)

私の任地であるモルディブの北に位置するクルドゥフシ島では今年初めての雨が5月2日に降り始め、今日5月22日まででまだ3日程しか雨が降っていません。先週と今週は全く降っていません。

雨季全体を通した降水量の増減との関わりは薄いかもしれませんが、今年は雨季開始時期が遅れていることは確実です。

断片的な情報ではありますが、よろしくお願いします。

パキスタン

2010（平成 22）年

パキスタン水害に関する情報

（パキスタン専門家より　10/8/18　着）

（前　略）

洪水についての情報は、国内では新聞・TV・ラジオなどで報じられていますが、支援の動きは 2005 年の地震のときより非常に遅れている感があります。

先日、UN 事務総長が被災地を訪問されていました。

本件について、日本で情報を得るにはパキスタン国内 TV 局のウェブサイトが一番手っ取り早いと思います。例えば以下；

Dawn：http://www.dawn.com/

Aaj：http://www.aaj.tv/

日本とパキスタン以外のことはわかりかねますが、少なくとも今年の気候は明らかにおかしいと感じます。

ある地域では夏なのになかなか暑くならなかったり、夏になる前から非常な暑さに見舞われたり、そしてこの洪水です。

アボタを含め、洪水に見舞われた地域では、これまで何週間も雨が降り続くことはなかったです。

私の意見は、アボタバードでの様子と、いくらかの新聞からの情報のみですので、偏っています。

是非、上記ウェブサイトで情報収集いただければと思います。

《PR》

当会のこの報告書は、JICA広報誌

JICA's World 2009年11月号

で取り上げられました。

ぜひご一読を！

http://www.jica.go.jp/publication/j-world/0911/index.html より閲覧ができます。

温暖化による被害は日本以上に、社会基盤が脆弱で資金や技術の乏しい開発途上国で顕著に現れている。しかしそうした実態は、これまで日本人の言葉で日本人に向けて語られることは決して多くなかった。

いま聞こえてきた地球の悲鳴―。

開発途上国で現地の生活に溶け込み、そこに暮らす人々とともに活動するJICAボランティアから、彼らだからこそ知り得るその貴重な証言が届けられた。

編集協力：青年海外協力隊愛知県OB会
協力：国際環境 NGO「FoE Japan」

多くの方のご協力を得ながら、今後も関係者のみならず市民の皆様にも途上国の実態をお届けしていきたいと思います。気候変動問題でも途上国が忘れられないよう、皆様のご理解･ご協力をお願いします。

青年海外協力隊　愛知県OB会　**担当：途上国と気候変動問題研究委員会**